

## 水 稲

### 田植えの遅延対策

- ・移植期に水不足となりやすい地域では、極力薄蒔き苗とし、育苗日数の延長に耐えうる育苗とする。
- ・育苗中は、老化を防ぐための節水管理や葉先の切除等による徒長防止を行う。
- ・苗が肥切れした場合は追肥を行い、苗の老化を抑える。
- ・移植予定日を25日以上過ぎて苗質の劣化が著しい場合は播き直す。

### 本田準備

- ・用水が不足する地域では、配水調整をするなど地域ごとの水管理体制を整備する。
- ・丁寧なあぜ塗りや代かきにより、浸透による漏水を防止する。
- ・代かきから移植までの期間をできるだけ短縮し、不要な落水をしない。

## 野菜・花き

- ・ほ場が乾燥している場合は、気温の下がった夕方以降に、うね間かん水やスプリンクラーを利用したかん水を行い、効率的な水利用に努める。
- ・播種又は定植時は、降雨うねたて後、速やかにマルチを行うとともに、必要な水量の確保に努める。
- ・乾燥を防ぐ対策として、うねの上にマルチや敷きわらを敷く。
- ・乾燥するとハダニ、アブラムシ等が発生しやすいため早期防除に務める。

## 果樹

- ・草生栽培園は、除草を行って土壤水分の競合を防ぐ。
- ・樹幹下に敷きわら、敷き草等を行い、土壤水分の蒸散を防ぐ。
- ・水が確保される地域では、定期的にかん水する。
  - ① 水量が少ない場合は、細根の多い樹幹下にスポット(部分)かん水する。  
スポットかん水は、表土を軽く取り除き、土中にかん水ノズル等を差し込んで、効率的に細根部にかん水する。  
(スポットかん水の目安：1樹当たり10リットル以上×2～4ヶ所程度)
  - ② かん水は、蒸散しやすい日中を避け、気温の下がった夕方に行う。
  - ③ かん水部には、必ず敷きわら、敷き草等をして、水分の蒸散を防ぐ。